

の運動の成果。世界にはたくさんの国があり、それぞれ大切なものがある。軍事や経済で押さえつけるのではなく、違いを尊重しあい平和を築き、戦争に近付かないようにしなきゃいけない」と語りました。

### 337回を迎えた<サロン九条>

【岐阜県／岐阜・九条の会】 「岐阜・九条の会」主催<サロン9条>は、2004年2月第1回例会が行われ、この8月27日、第337回を迎えました。今回から会場が、日本キリスト教会の会議室に変わりましたが、幸い今までと同じく、こちらもご好意で無料使用させて頂くことになりました。

今回は、「アウシュヴィッツを訪ねて」と題した話題提供を、木俣光江さんからして頂き、意見交換しました。初めての参加者も多く、32名でした。

木俣さんは、まずドイツ軍によって壊滅的な破壊にあった首都ワルシャワの爪痕と復興の様子を、いくつもの写真を通して紹介されました。

アウシュヴィッツ収容所についても、数多くの写真と資料にもとづいて詳しく説明されました。中でも目を引いたのは収容者たちの遺品で、小さな靴の山(子ども)、義足の山(障がい者)、死体を焼いて出る脂で作ったローソクなどで、虐殺の残酷さを直接物語っていました。

木俣さんが話された中で印象深かった一つは、「初めに言葉があった」という話です。これは「ユダヤ人はドイツから出ていけ!」という言葉から虐殺が始まったということで、現在日本のヘイトスピーチにつなげて指摘されました。

意見交換では、この指摘を受けて、朝鮮人差別は許されないとの声や、相模原市で起きた事件の背後にある優性思想の問題を指摘する意見が相次ぎました。さらに、障がい者を抱えている人から、戦争になると真っ先に犠牲になるのは障がい者で、すべての人のいのちを大切にしなければならないと強調され、参加者全員の共有する考えになったように思われます。

最後に、司会者(吉田)から、憲法の前文に明記されているように、戦争は国民ではなく政府(国家権力)が「起こす」ものであり、安倍政権による改憲はやめさせるように力を合わせましょう、と呼びかけがありました。(吉田千秋(「岐阜・九条の会」代表世話人))

### 安倍首相が辞めるまで続ける

【長野県伊那市／東春近9条の会・竜東9条の会】 東春近9条の会と竜東9条の会は8月19日、合同で朝7時半から通勤など車の運行の多い場所でスタンディングを実施しました。「憲法が生きる日本へ」「安倍さんのウソとゴマカシを許さない」「みなさん一緒に憲法を守りましょう」など手書きポスターや横断幕を持参し、17人でアピールしました。

伊藤敬子さんは「9条改憲をあきらめない安倍政権が続く限り、宣伝を続ける」意気込みを語り、有賀美鈴さんは県内世論調査で改憲反対が多くなり、「毎月続けていることが力になっている」と語りました。

別の男性は「地域訪問で『立っていましたね』と言われ、宣伝が浸透していると感じる」と語りました。